The Entomological Society of Japan

朝比奈博士採集の朝鮮産銀口蜂

常　木　勝　次
福井大学生物学研究室

Some Crabronids collected by Dr. S. Asahina in Korea

By Katsuji Tsuneki

朝鮮産銀口蜂類については，Kohl (1915)，岩田 (1938)，安松 (1942) および筆者 (1943, 47) の記録があり，現在までに 28 種が知られている．

ここに扱つた材料は，朝比奈正二郎博士が 1934 年に採集されたもので，分布上興味あるものを含んでいる．朝鮮産の昆虫は 現在なかなか入手しがたい 貴重な資料なので，標本の数は多くはないが，ここに記録に止め，かつは，同博士の御好意に報いたい．なお参照文献は綜括的な筆者 1947 だけにとどめる．

1. **Ectemnius (Metacrabro) konowii** (Kohl, 1905)

Crabro (Crabro) konowii Tsuneki, J. Fac. Sci., Hokkaido Univ., Ser. VI, Zool., p. 283, 1947.

2 ♀♀, Hutempo—Taitimpyoo (Kan-nan, N. Korea), 6, 8. VIII. 1934.

従来の記録でははつきりしているものは咸北地方だけで，咸南は初記録である．

2. **Ectemnius (Metacrabro) spinipes** (A. Morawitz, 1866)

Crabro (Crabro) spinipes Tsuneki, 1947, p. 282.

1 ♂, Taihyoo—Taitimpyoo (Kan-nan, N. Korea), 8. VIII. 1934.

同上朝鮮産のものは，頭楯の彫りが深く，日本のものとは明らかに異なる地理的亜種に属するが，両者の原種との関係は目下のところ明らかでない．記載だけから判断すると，朝鮮のものが原種に近いようである．

3. **Ectemnius (Yanonius) martjanowii** (F. Morawitz, 1892)

Crabro (Crabro) martjanowii Tsuneki, 1947, p. 282.

1 ♀, Taihyoo—Taitimpyoo (Kan-nan, N. Korea), 8. VIII. 1934.

咸南は新記録である．この種については，すでに詳しく述べた (常木：昆虫，24, pp. 128–132, 1956).

4. **Lestica (Clypeocrabro) camelus** (Eversmann, 1849)

Crabro (Clypeocrabro) camelus Tsuneki, 1934, p. 285.

1 ♂, Uti-Kongo, C. Korea, 28. VII. 1934; 1 ♀, Taitimpyoo—Taihyoo (Kan-nan, N. Korea), 8. VIII. 1934.

中鮮より新記録，従来は北鮮だけから知られていた．

NII-Electronic Library Service

The Entomological Society of Japan

5. Crossocerus (Acanthocrabro) vagabundus (Panzer, 1798)

Crabro (*Blepharipus*) *vagabundus* (f. *quadricinctus* Dahlbom) Tsuneki, 1947, p. 289.

1 ♀, Taitimpyoo—Taihyoo (Kan-nan, N. Korea), 8. VIII. 1934.

上掲筆者の記録したものは f. *quadricinctus* Dahlbom という型のものであるが，この材料の色彩は日本産の亜種 *yamatonicus* Tsuneki に近い．即ち前胸の，中央で切れた 1 横帯（日本産のものでは，これのあることは極めて稀），腹部第 2，第 3 節の 2 紋，第 5 節の小紋（日本のものでは大抵横帯）が黄色，脚の脛節の黄色部は日本産よりはるかに広い．ここには ♂ はないが朝鮮産の ♂ では前腿節下面の棘状突起が非常に短く（原種では非常に長く，これが亜属名の基となつている．日本産のは殆んど完全に欠除している），新亜種をなすものと考えられる．ここの ♀ は，恐らくそのような ♂ と結合さるべきものと見られるが，これについては，♂ の材料について詳しく記すことにする．なお，色彩については，原種でも，ここに記したようなものが多い．

6. Rhopalum (Latrorhopalum) laticorne (Tsuneki, 1947)

Crabro (*Rhopalum*) *laticornis* Tsuneki, 1947, p. 292.

1 ♀, Kongo-san (C. Korea), 28. VIII. 1934.

朝鮮では咸北だけから知られていた．中鮮にも分布することは興味深い．日本にはこの種は産せず，他の産地としては樺太の記録だけがある．

Chen (1935) の記事 "*Phytodecta nivosus immarginatus* Achard, from Japan" は標本に基いた記録ではない

木　元　新　作

Phytodecta (*Phytodecta*) *nivosus* Suffrian (1851) は元来ヨーロッパに分布する種類として知られて来た．しかるに Chen のアジアの *Phytodecta* のカタログ (1935) 及びアジアの Chrysomelinae のカタログ (1936) には *Phytodecta nivosus immarginatus* が含まれていて，その分布の項には "Japan" が挙げられている．

この事に関し，Bechyné (1947) は Chen (1936) が日本から *P. nivosus immarginatus* Achard として記録したものは恐らく *P.* (*Brachyphytodecta*) *rubripennis* ab. *tenebrosus* Weise の誤りであろうと述べている．即ち *P. nivosus* Suffrian ab. *immarginatus*, Chen, 1936, (nec Achard, 1924) =*P. rubripennis* (Baly) ab. *tenebrosus* Weise, 1910 という見解なのである．

しかしながら筆者は Chen (1935) のカタログに於いて，元来ヨーロッパのみが産地として知られていた *P. nivosus* の一色彩型のみがアジアから発見され，しかもその色彩型のみがヨーロッパに於ては発見されず，日本に於てのみ発見されるという事に関し Bechyné とは異つた疑問を持つたのである．

NII-Electronic Library Service